

## 生ごみ減量実践促進事業

(7,976千円)

### 【現状と課題】

#### 依然として全国下位に低迷

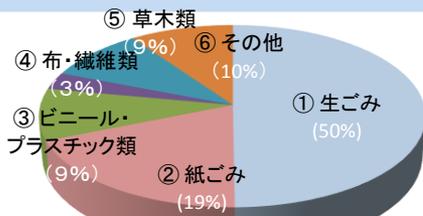
1人1日当たりごみ排出量は全国ワースト2位、リサイクル率は全国ワースト4位（いずれも平成25年度実績値）となっている。

#### 食品ロスの削減・生ごみの水切り

本県のごみ減量化を推進する上で、生活系可燃ごみの約5割を占める生ごみの減量が不可欠。食品ロスの削減と生ごみの水切り徹底を県民運動として普及啓発する必要がある。

#### 食品循環資源の再生利用促進

本県のリサイクル率向上に向けて、食品循環資源の再生利用促進が課題となっている。



H25県実施 可燃ごみ組成調査結果

### 【事業内容】

第3次青森県循環型社会形成推進計画（平成28年3月策定）の取組を加速させるため、同計画の周知と同計画に掲げる生ごみの減量に向けた普及啓発活動を重点的に展開するとともに、本県における食品循環資源の再生利用を促進する。

#### もったいない・あおもり県民運動 3つの「きる」の実践促進

食品ロスの削減、生ごみの水切りの徹底を促進するため、「食材は使いきる」「料理は食べきる」「生ごみは水気をきる」の3つの「きる」について、テレビCMによる重点広報を実施するとともに、第3次循環計画の周知と日常生活での実践を促す普及啓発活動を県内各地で展開する。

- テレビCMによる重点広報
- 3つの「きる」実践促進講習会（6地区）  
青森県食生活改善推進員連絡協議会に業務委託
- 啓発資料と啓発グッズの作成  
(水切り器と水切りネット)



#### 食品循環資源の再生利用促進

食品循環資源の再生利用を促進するため、全国の動向等を学ぶセミナーを開催するとともに、本県の地域特性に合った効率的な再生利用方策について調査研究等を行う。

- 食品循環資源再生利用促進セミナーの開催
- 食品循環資源再生利用に係る意見交換会の開催
- 食品循環資源再生利用方策の調査研究



### 【事業効果】

- 食品ロスの削減、生ごみの減容減量化（生ごみの10%減量化を目標）

- 効果的な循環資源再生利用促進施策の構築



ごみ排出量の削減  
リサイクル率向上

全国下位  
からの脱却

# 野菜のちからで未来を変える食育実践事業費（7,194千円）

（ H28～29 ）

## <現状と課題>

### 全国一の短命県

その要因に

- ・野菜の摂取量不足  
（目標（350g）未達成）
- ・栄養バランスが偏った食生活  
（脂肪エネルギー比率 目標（25%以下）未達成）

### これまでの取組により

- ・小売店や産直施設で野菜摂取量アップの意識が向上、自主的な啓発活動が展開

### 食育の新しい推進方針がスタート

- ・第3次青森県食育推進計画が始動（H28～H32）

### 意識啓発から実践へ

～行動へ結びつけるために～

- ① ターゲット別の対応が必要
- ② 野菜摂取等の健康的な食生活の「実践」が必要
- ③ 生産者や専門家、企業等との連携が必要

## <事業内容>

食育でキーとなる世代別に野菜摂取量アップ等による健康的な食生活の**実践**を促し、新しい食育計画のスタートダッシュを図る。

### 1 子どもが“野菜でわくわく大作戦”

【青森力を生かした野菜勉強会の支援】

- ① 保育所等と生産者・地域等との連携による食農体験・学習会の実施
- ② 保育所等での「野菜となかよし給食」の実施

【モデル保育所等：県内5か所】

○ 給食メニューや対象保育園等は、教育庁、健康福祉部と連携

### 2 働き盛りが“食でもりもり大作戦”

【社員に対する食育啓発・実践活動の支援】

- ① 社食等に対する野菜たっぷりメニューの提供等研修会の実施
- ② 健保組合等と連携した食生活改善の実践支援（社員の食生活改善状況のモニター、公開指導）

【モデル企業等：県内5企業×2人】

○ 健康データ、給食メニュー、人材活用は健康福祉部と連携



### 3 どんどん摂ろう“野菜を食べようキャンペーン”

【顧客等に対する食育啓発・実践活動の支援】

- ① 小売店、産直施設に加え、**飲食店、社食等**への啓発
- ② 協力店との協働による一斉キャンペーンの実施
- ③ **生産者が行う野菜即売会等**での啓発活動の実施

## <事業効果>

- ① 保育所等・企業による食育の拡大
- ② 健康的な食生活実践者の増加
- ③ 野菜摂取量の増加（目標350g以上）
- ④ 地産地消の推進

・第3次青森県食育推進計画の目標

**「健康で活かに満ちた『くらし』の実現」の達成**

・健康寿命の延伸  
→人口減少への歯止め





# あおもりの未来を変える0歳からの家庭教育応援事業

[6,704千円]

戦略プロジェクト:人口減少克服プロジェクト

生涯学習課、総合社会教育センター



家庭教育はすべての教育の出発点  
三つ子の魂百まで

## <現状>

・ひとり親世帯の増加等の家庭を取り巻く社会環境の変化により孤立する親が増加し、親が身近な人などから子育てについて学ぶ機会が減少している。

・肥満傾向児出現率が高いなど子どもの生活習慣に課題がある。

## <課題>

・幼児期は人間形成の基礎が培われる重要な時期であるため、全ての家庭への情報提供等の対応策が必要

・幼児期からの食習慣を含む生活習慣の改善が必要

## <事業内容>

### 取組1 青森県における「乳幼児期からの家庭教育支援」普及定着事業

生涯学習課・総合社会教育センター

#### ○家庭教育支援に係る調査・研究及び市町村支援(主管:生涯学習課)

- ・内容:肥満傾向児出現率の高さ、う歯被患率の高さなど青森県における「乳幼児期からの家庭教育支援」について調査・研究
- ・市町村作成の母子健康手帳に調査・研究から得られた内容の取り込みと市町村の子育て支援策への反映

市町村児童福祉部局等と連携

#### ○家庭教育支援テレビ番組の放映(主管:総合社会教育センター)

- ・今まで届かなかった家庭へのアプローチと、社会全体で家庭を支える機運を醸成するため家庭教育支援コンテンツ事業と連動し、制作した番組をテレビで放映

### 取組2 0歳からの家庭教育応援フォーラムの開催

生涯学習課・健康福祉部と共催

#### ○乳幼児期からの家庭教育の大切さを啓発するため、フォーラムを開催

- ①ヤングパパ・ママと未来のパパ・ママ交流会  
子育て中の親と高校生・大学生と意見交換
- ②講演会
- ③パネルディスカッション  
パネリスト:あおもり家庭教育アドバイザー、家庭教育支援団体  
学校関係者、保健師、保育士等
- ④パネル展示(関係機関、健康福祉部局等)

健康福祉部、関係機関と連携

### 取組3 イクジイ、イクバアのためのイマドキの子ども研修会

生涯学習課

#### ○祖父母向けの家庭教育研修会を開催

- ・内容:子どもの発達段階に応じた家庭教育の重要性や生活習慣等についての研修
- ・28年度:東青、中南、下北、29年度:上北、西北、三八  
(青森県地域婦人団体連合会へ委託、3地区×2か年)

## <成果>

・幼児期からの生活習慣が確立

・就学前と学校教育との円滑な接続



・生涯を通じて健康で安定した社会生活を営むことができるようになる。

・青森で子どもを生き育てることに希望と自信が持てる環境整備ができるようになる。

